

平成 30 年度社会福祉法人遠野市保育協会事業報告書

平成 30 年度は、当協会が設立されてから 45 年を迎え、市内全域での保育園の経営及び全小学校区において児童館・児童クラブの受託運営を行い、遠野市内における子育て支援を実践する法人として、市民の期待や負託にこたえるべき役割を果たしてきました。

また、第 2 期健全経営計画の的確な取組みや社会福祉法人の制度改革への適切な対応など協会を取り巻く様々な環境の変化に対応するとともに、自らの経営体質を強め、持続可能な法人となるよう、各種事業を取り組みましたので、次のとおり添付資料と併せて事業報告します。

1 法人運営

第二種社会福祉事業である保育園 13 ヶ所及び児童館 7 ヶ所の指定管理並びに児童クラブ 4 ヶ所、地域子育て支援センター「まなざし」、病児等保育施設「わらっぺホーム」の受託運営等の事業を展開し、遠野市における子育て支援の中核的な役割を担うとともに、当協会を取り巻く環境の変化への円滑な対応を図り安定的な経営に努めました。

以下、平成 30 年度事業計画に基づいての詳細な事項を記載します。

(1) 社会福祉法改正への対応

制度改革への対応において、経営組織のガバナンスの強化では、会計監査人導入のための定款など諸規定の見直しを行うとともに、会計監査人の導入を図る条件の一つとして指導されておりました会計基準の適正な移行処理に基づいた基本財産の減価償却（固定資産台帳）の適切な再評価を行い、平成 31 年度（令和元年度）から会計監査人を導入します。

また、事業運営の透明性の向上に向けた情報の公表、公開など適切な対応に努めました。更に、「地域における公益的な取組」においては、市内各地域にある協会に資源を活用し、出来ることから取組みを展開しました。今後も市社会福祉協議会を始めとした社会福祉法人との連携を深め、地域共生社会の実現に向けた取組みを推進してまいります。

なお、毎会計年度、保有する財産について、事業継続に必要な財産を控除した上、再投資可能な財産（社会福祉充実残額）を算定しましたが、残額は生じませんでした。

(2) 第 2 期健全経営計画（元気プラン）の的確な推進

計画策定 3 年目（前期の中間年）となることから検証作業を行った結果、ここ 1～2 年の急激な出生数の減少が本計画との乖離も大きく、法人経営にも大きく影響する状況となったことから、運営費の再試算、保育園定数の削減、保育園の再編、鱒沢保育園の分園化など計画の見直しを検討しました。一方では、計画（元気プラン）の的確な取組みに努め、後述しますが、綾織保育園の改築に向けた設計や職員の処遇改善、研修の充実、事務局体制の強化などを推進しました。

(3) 適性な会計処理と監査機能の充実

「社会福祉法人会計基準」に則した適正な会計処理に努めるとともに、会計監査人導入に

向け、公認会計士の事前指導及び税理士による外部監査体制の強化を図りました。

また、内部監査人を配置し内部監査機能の充実に努めるとともに、会計処理能力の向上に向けた指導、研修を強化しました。

(4) 広報活動の強化と情報発信の取組み

保護者や市民等に対して、保育園、児童館・児童クラブ、子育て支援センター、病児等保育施設の子どもの様子や活動の内容等の発信に取り組みました。

① ホームページ

各施設、季節ごとの活動内容や子どもたちの様子、お知らせなどを随時更新し、新しい情報を伝えるように努めるとともに、法人としての情報を掲載しました。

ホームページへのアクセス数は、協会全体で71,020回と前年比113.8%となりました。

② オリジナル番組「とおのっ子バンザイ」

「元気・笑顔・とおのっこ」を共通テーマに各施設での児童の様子や行事などを遠野テレビと連携して番組を制作し、毎月第4火曜日に3分間の放送を行いました。

③ 機関紙「かたぐるま」の発行

事業報告・決算、職員募集、各施設の活動状況、子育てワンポイントなどを掲載し、年2回（8月・11月）全戸配布しました。

(5) 職員体制等

① 人材の安定的な確保及び処遇改善

多様化するニーズに対応するとともに、質が高く、安定したサービスの提供を実施するためには、専門性の高い人材の確保が重要でありますので人材確保に努めました。今年度当初の職員（嘱託職員・正規職員・臨時職員・パート職員等）は290名で、業務施設別には次のとおり配置しました。退職職員は7名（保育士6名、栄養士1名）でありましたが、保育士7名（うち再任用職員2名を含む）、指導員1名を採用し、正規職員の数は93名（前年比同数）となりました。

	嘱託職員	正規職員	臨時職員		合計
			基準職員	パート職員等	
保育園		82	65	68	215
児童館等	5	7	11	36	59
子育て支援		(兼1)	2	1	3
病児等保育		1		9	10
本部事務局	1	4		1	6
合計	6	93	76	115	290

また、魅力ある職場づくりや人材の確保・定着を図る一手法として、手当等の見直し及び一時金の支給など処遇の改善（臨時職員含む）を実施しました。

② 人材の育成（研修等の充実）

組織内研修と組織外研修（派遣研修）を連動させ、勤務体制の工夫などによる体系的かつ計画的な研修機会の確保により積極的に研修等への参加を促し、職員の資質向上と人材の育成を図りました。保育の質の向上は勿論、職位・職責などに対応した部分でも職員の意識の変化が表れてきたように感じております。

(6) 安全管理

施設内外で想定される事故等のリスクを洗い出し、分析し、再発防止や類似事故の発生予防に努めるとともに、遊具を含めた施設内外の安全点検を行い、災害や事故の発生に備え、定期的な避難訓練等も実施しました。また、感染症などの発生予防、発生した際の拡大防止を図るためのマニュアルの再確認や嘱託医、保健所等との連携の強化に努めました。

(7) 会議等の開催

① 評議員会（評議員 9 名）の開催

法人運営の重要事項等について決議していただくため、定時評議員会 1 回及び臨時評議員会 2 回の計 3 回開催しました。

（詳細は別紙参照）

② 理事会（理事 7 名・監事 2 名）の開催

法人の業務施行に関する重要事項等について決定を行うため、年度 5 回開催しました。

（詳細は別紙参照）

③ 役員会の開催

役員の実行体制の強化及び情報の共有を図るため、年度 4 回開催しました。

④ 「福祉サービスに関する運営適正化検討会議」の開催

苦情解決第三者委員 2 名・全施設長等で組織される「福祉サービスに関する運営適正化検討会議」を開催し、保育園・児童館等法人施設に寄せられた苦情、起こった事故等について事例検証を行い、意識等の共有化と再発防止に資するため 2 回開催しました。

（詳細は別紙参照）

⑤ 契約等予定者選定委員会の開催

工事及び物品購入等業者選定の適正を図るため、年度 3 回開催しました。

（詳細は別紙参照）

⑥ 「定例園長会議」・「定例館長会議」の開催

保育園・児童館等法人施設間の連絡調整や相互連携を図るため、園長・館長会議をそれぞれ、毎月開催しました。なお、合同のものは、施設長会議を開催するなど対応しました。

(8) 保育園定員の見直し

充実した保育実施に向け、地域偏在の現状・傾向を反映した保育園定員とする見直しを行いました。（平成 31 年 4 月適用）

保育園定員の見直し状況

(全体定員 855 人 ⇒ 815 人)

保育園名	見直しの視点	変更前の定員	変更後の定員	増 減
神明保育園	減員する	90	70	△ 20
綾織保育園	減員する	60	50	△ 10
松崎保育園	減員する	60	50	△ 10

2 保育園の経営

「子どもたちと共に笑顔の花が咲く職場」を目指した運営を全保育園において緊張感を持って保育及び運営に努めました。

平成 30 年 4 月から施行された「新・保育所保育指針」の方向性を踏まえ、子どもの健康及び安全を確保しつつ、子どもの一日の生活や遊びの発達過程を見通し、保育の内容を組織的・計画的に実践に努めました。

運営においては、宮守 3 園のうち協定に基づいた遠野市から運営費助成を受けたのは鱒沢保育園のみで、宮守保育園、達曽部保育園は当初計上していた運営費助成を返還するとともに、12 カ所（鱒沢保育園以外）の保育園においては積立資産（人件費又は施設整備）への積立ができるなど公定価格の単価改定などの要因により安定した経営が図られ、概ね順調に推移しました。

なお、運営費収入に対する人件費率は、一人ひとりに寄り添った保育の充実を図るために、保育士や保育補助者を増やしたこと、及び保育士等処遇改善として給与等の改定や一時金として支給したことから前年比 1.0 ポイント上昇しました。

運営費・人件費

(単位：円、%)

	H30	H29	H28
運 営 費 収 入	881,499,280	896,710,850	931,856,420
人 件 費 支 出	718,253,297	722,087,755	708,730,551
人 件 費 率	81.5%	80.5%	76.1%

保育園の職員配置においては、年度途中での有資格者の確保ができにくい状況を踏まえ、年度当初から職員配置基準を意識した有資格者の確保に努め、途中入所増にも対応できる体制づくりに努めました。

また、専門職員相互の機能性を高めるとともに、保育業務をチームとして遂行するため、主任・副主任保育士が職員に対する指導・相談など現場での問題解決に向け職員間のパイプ役として取り組みました。

職員配置状況

単位：人

	園長等	基準職員等					基準外職員					合計
		保育士	看護師	栄養士	調理員	計	保育士	保育補助	調理補助	看護師	計	
①当初配置	14	105	3	9	16	133	23	34	8	3	68	215
うち正規職員	14	57	2	8	1	68	—	—	—	—	—	82
②年度末配置	14	107	4	9	16	136	23	35	8	4	70	220
②—①	0	2	1	0	0	3	0	1	0	1	2	5

(1) 入所児童

入所児童数は、756名（当初入所児童数691名でスタート）と総定員（855名）比88.4%と下回りました。これは、少子化に伴う児童の減少が原因と考えられます。

入所児童数

(単位：人)

	H30	定員比(855名)	H29	H28
当初入所児童数	691	80.8	736	762
当初入所児童見込数	759	88.8	783	812
入所実績	756	88.4	781	815

(2) 保育の質向上への取り組み

入所している子どもたちが安定した生活を送り、発達の過程に応じ充実した活動ができるよう職員の資質・専門性の向上を図り、保育の質向上のため次のような取り組みを行いました。

① 保育士等の専門性の向上

質の高い保育を展開するためには、保育園において子どもに関わるあらゆる職種の職員一人ひとりが、その資質を向上させることが大切でありますので、園内研修、グループ研修（園長、主任、未満児、3歳以上児、栄養士など11グループ）を開催するとともに、県内外の各種専門研修に積極的に参加させ、職員の自己研鑽意識の醸成を図るなど資質の向上に取り組みました。

② 組織的な取組

各保育園で保育計画の展開状況や保育士等の自己評価を踏まえ、園としての保育内容に対する自己評価を実施するとともに、評価結果を分析し、園として取り組むべき課題を明確にして改善を進め質の高い保育サービスの提供に努めました。

③ 多様化する保育ニーズへの対応

女性の就業率の向上や就労形態の複雑化、核家族化など子どもに関わる環境の変化により多様化するニーズに対応するため、各保育園で提供している特別保育事業（地域活動・延長保育・一時保育・休日保育・障害児保育）の充実を図りました。

④ 子育て支援・相談体制の充実

保護者の気持ちを受け止め、求めている子育ての問題や課題に対して、専門性を活かした支援や相談に努めました。また、入所児童にとどまらず地域に開かれた子育て支援に関する拠点としての役割を担うべく取り組みました。

⑤ 食育の充実

食育を保育内容の一環として位置付け、安全安心、楽しい食と健康を守る自園調理の提供に取り組むとともに、保護者への情報提供にも努めました。また、食物アレルギーの対応には十分注意を払い 10 保育園において 25 人分の除去食も実施しました。

(詳細は別紙参照)

⑥ 公開保育の実施

各保育園での実践事例から学び合い、刺激を受け、自身の保育や課題を見つめ直すことを目的に、自主研修組織双葉会と連携し公開保育を次のとおり実施しました。

「公開保育」実施状況

公開施設	公開月日	テーマ	職員参加人数
遠野保育園	平成 30 年 8 月 9 日	幼児期の終わりまでに育ってほしい「10 の姿」のどの部分の育ちに繋がっているのか	22 人
白岩保育園	平成 30 年 9 月 28 日		26 人
附馬牛保育園	平成 30 年 10 月 12 日		25 人
達曽部保育園	平成 30 年 10 月 17 日		32 人

(3) 特別保育の充実と「病児等保育」の受託

病児等への適切な看護及び保育を通して、保護者への育児相談及び就労支援の提供を行いました。特にも、県立遠野病院小児科医や市こども政策課等と情報を共有し適切な対応を行うとともに、0～2 歳児の利用時には、情緒の安定を図るため可能な限り 1 対 1 の保育看護に努めました。

また、保育園看護師との情報交換を定期的に行い、保育園での疾患対応や保健衛生に関する情報の共有を図るとともに、独自に作成した「遠野市保育協会登園基準マニュアル」に基づき、感染症の予防等の対応を徹底しました。

利用傾向については、発熱を伴う風邪と胃腸炎が年間を通して続き、繰り返し利用する子どもが多く見られました。また、12 月以降にはインフルエンザの流行により利用者が増え、1 日平均の利用は昨年と同水準でありました。

「病児等保育」利用実績

単位：日、人

	H30	H29	H28
開 室 日 数	241 日	242 日	244 日
利 用 延 べ 人 数	623 人	631 人	553 人
1 日 平 均	2.59 人	2.60 人	2.26 人

(4) 園舎等施設整備

施設整備計画に基づき平成30年・31年の2カ年事業として改築整備を進めております。綾織保育園改築に係る設計業務が平成31年(令和元年)5月に完了する見込みですので、その後、改築工事に係る諸手続きを経て工事着手する予定です。年度内の完成を目指しております。また、その他の園につきましても、運営費の中で必要な施設補修等を実施し、施設の安全管理に努めました。

(5) 小学校等との連携

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を念頭におき、アプローチカリキュラムを作成し卒園後のスムーズな学びへの接続を意識した主体的で共同的な活動の充実を図るとともに、保育園から小学校に入学する全卒園児の情報提供(保育要録)を各入学予定小学校に提供しました。

3 児童館・児童クラブの運営

附馬牛の施設が児童館となったことから遠野市より7児童館を指定管理、4児童クラブを受託し、少子化や核家族化、地域社会の希薄化など就学後の子ども達を取り巻く環境が大きく変化している中、市内11小学校区全ての放課後学童の居場所として、遊び(体験・交流・学び等)を通して健全育成を図りました。

学校行事等の影響により利用状況は増減いたしますが、現在のように子ども達を取り巻く環境が大きく変化している状況下、放課後の居場所としての役割は益々重要となっております。

児童館・児童クラブの利用登録児童数(実数)

施設名	H30		H29		H28		
	実績(人)	前年比(%)	実績(人)	前年比(%)	実績(人)	前年比(%)	
小学生	利用登録数	974	96.5	1,009	99.5	1,015	100.8
	年間延べ利用人数	124,546	99.3	125,325	98.7	127,010	96.3
	1日平均利用人数	43.5	99.3	43.8	98.7	44.4	87.6
全体	利用人数	131,258	99.8	131,500	97.7	134,571	96.1
	1日平均利用人数	45.9	99.7	46.0	97.7	47.1	87.5
土曜日	利用児童数	536	86.0	623	86.7	727	100.8
	開館日数	58	81.6	71	97.3	73	100.0
	1日平均利用人数	9.2	104.5	8.8	88.0	10.0	101.0
年間開館日数等(土曜日を除く)		2,860		2,860		2,860	

※全体＝小学生、幼児、中学生、高校生、一般の利用者の合計

(1) 職員配置

館長は複数館担当として7児童館・4児童クラブに5名を委嘱し対応しました。

職員体制は、各館2名を基本として主任1名と副主任1名、遊びの指導員を配置すると

ともに、利用状況に応じて柔軟に増員対応し活動の充実を図りました。

また、要支援児童の利用対応についても、その児童の状況により増員配置しました。

職員配置状況

単位：名

館長	遊びの指導員				計
	主任	副主任	指導員		
			児童館	児童クラブ	
5	1	1	21	9	37

(2) 指導内容の充実

遊びによる心身の健康維持及び知的・社会的能力を高める様々な活動に自発的に取り組めるような事業やプログラムを工夫するなど内容の充実に努めました。

更には、全児童館・児童クラブや中学校区ごとに交流する場として、合同事業を積極的に実施しました。

(活動状況の詳細は、別掲 児童館(2)合同事業を参照。)

(3) 職員の資質の向上

児童館・児童クラブは、年齢や発達状況が異なる子ども達が一緒に過ごす場所であるため、職員には適切に関わる専門性が求められることから内部研修の充実を図るとともに、「児童厚生2級指導員研修」などに積極的に参加させ資質の向上を図りました。

(4) 要支援児童への対応

近年、増加傾向にある要支援児童の対応については、児童の理解と保護者を含めた適切な対応や支援が必要であるので、専門家を独自に招聘して講義及びケース検討研修を実施し、対応力の向上を図り、支援が必要な児童や保護者に寄り添った支援を行いました。

また、小学校との連携はもとより、保護者やこども政策課、健康福祉の里、花巻清風支援学校などの専門機関、地域と連携して対応しました。

要支援児童数（病名が有る児童）

H30	H29	H28
36人	32人	37人

(5) 子育て（サークル活動）支援

就学児童が利用しない午前中の時間帯を中心として、在宅の親子に児童館・児童クラブ施設を活動場所に開放しながら、仲間意識の高まりや自主的に活動が行えるよう支援を行いました。また、子育てに関わる悩みや相談対応を支援センターや保育園と連携して行いました。

各地域子育てサークルの状況

(単位：世帯)

子育てサークル名	関与館名	登録世帯数			活動内容
		H30	H29	H28	
ひよこクラブ	遠野児童館	23	27	21	※別掲 子育て支援センター まなざし活動の(3)各 サークルの活動状況 を参照のこと
すくすくクラブ	綾織児童館	12	8	10	
子育ておしゃべり会	白岩児童館	15	17	17	
つくしんぼクラブ	附馬牛児童館	0	1	1	
にこにこクラブ	小友児童クラブ	1	3	1	
ひまわりクラブ	土淵児童クラブ	9	6	12	
たけのこクラブ	青笹児童館	20	16	13	
かみごうっこクラブ	上郷児童館	20	11	12	
宮守カンガルー教室	宮守児童館	16	11	10	
計		155	100	97	

※ 他に遠野聖光のサークルあり

4 地域子育て支援センターの運営

子育て家庭等に対する相談指導、子育てサークル活動等への支援は、社会福祉法人としての公益的な取組でもあることからその充実を図りました。

(1) 支援センター「まなざし」等の活動充実

支援センターには専任の所長を配置し、各保育園の子育て支援推進担当者(主任保育士に発令)、各児童館・児童クラブ指導員と連動して活動の地域的温度差を解消し、子育て支援の拠点として、コーディネート機能の充実に努めました。

また、「まなざし」を利用する在宅親子に交流等の場を提供するとともに、親子同士の自主的活動支援、各地域子育てサークル活動の支援並びに合同事業や専門職による相談等を企画実施しながら利用の拡大を図りました。

年間利用人数の状況

H30	H29	H28
2,131人	1,640人	2,034人

職員等事業推進体制

白岩保育園上席主任保育士 兼地域子育て支援センター所長	保育士
1名	3名

地域子育て支援推進担当者	子育てサークル
各保育園主任保育士等	児童館等職員
13名	11名

(2) 支援団体等との連携

子育て支援連絡会「クレヨン」、協会退職職員(OB)組織「陽だまりの会」及び主任児童委員との連携を強化し、在宅親子等への育児支援を推進しました。